



平成26年11月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年7月10日

上場取引所 東

上場会社名 津田駒工業株式会社

コード番号 6217 URL <http://www.tsudakoma.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 菱沼 捷二

問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役専務 総務部長 (氏名) 竹鼻 達夫

TEL 076-242-1110

四半期報告書提出予定日 平成26年7月11日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年11月期第2四半期の連結業績(平成25年12月1日～平成26年5月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 四半期純利益 | |
|--------------|--------|------|------|---|------|---|--------|---|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 26年11月期第2四半期 | 18,943 | 17.5 | △544 | — | △576 | — | △566 | — |
| 25年11月期第2四半期 | 16,120 | △2.9 | △902 | — | △959 | — | △952 | — |

(注)包括利益 26年11月期第2四半期 △655百万円 (—%) 25年11月期第2四半期 △435百万円 (—%)

| | 1株当たり四半期純利益 | 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益 |
|--------------|-------------|--------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 26年11月期第2四半期 | △8.86 | — |
| 25年11月期第2四半期 | △14.91 | — |

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 |
|--------------|--------|--------|--------|
| | 百万円 | 百万円 | % |
| 26年11月期第2四半期 | 38,792 | 15,348 | 36.9 |
| 25年11月期 | 42,435 | 16,006 | 35.3 |

(参考)自己資本 26年11月期第2四半期 14,333百万円 25年11月期 14,996百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|-------------|--------|--------|--------|------|------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 25年11月期 | — | 0.00 | — | 0.00 | 0.00 |
| 26年11月期 | — | 0.00 | — | — | — |
| 26年11月期(予想) | — | — | — | — | — |

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成26年11月期の期末配当につきましては未定です。
配当予想額の開示が可能となった時点で速やかに開示する予定です。

3. 平成26年11月期の連結業績予想(平成25年12月1日～平成26年11月30日)

(%表示は、対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 当期純利益 | | 1株当たり当期純利益 |
|----|--------|------|------|---|------|---|-------|---|------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 40,000 | △2.9 | 150 | — | 100 | — | 100 | — | 1.56 |

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

| | | | | |
|---------------------|-----------|--------------|-----------|--------------|
| ① 期末発行済株式数(自己株式を含む) | 26年11月期2Q | 68,075,552 株 | 25年11月期 | 68,075,552 株 |
| ② 期末自己株式数 | 26年11月期2Q | 4,156,632 株 | 25年11月期 | 4,155,637 株 |
| ③ 期中平均株式数(四半期累計) | 26年11月期2Q | 63,919,348 株 | 25年11月期2Q | 63,920,961 株 |

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

| | |
|------------------------------|------|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | P 2 |
| (1) 経営成績に関する説明 | P 2 |
| (2) 財政状態に関する説明 | P 3 |
| (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 | P 4 |
| 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 | P 5 |
| (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 | P 5 |
| 3. 四半期連結財務諸表 | P 6 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | P 6 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | P 8 |
| (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 | P 10 |
| (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 | P 11 |
| (継続企業の前提に関する注記) | P 11 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) | P 11 |
| (セグメント情報等) | P 11 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、アベノミクス効果による景気回復基調が続く中、消費税増税による一時的な落ち込みが見られましたものの、影響は最小限にとどまりました。一方、国際経済におきましては、中国経済の成長鈍化や、ウクライナ、中東問題など不透明な要因が増してまいりました。他方、米国経済は基幹産業を中心に好調に推移し、欧州経済にも回復の兆しが見られるなど、全体としては、まだら模様となりました。

こうした中、当企業グループは、受注の確保と売上の拡大に注力いたしました。

しかし、期初の予想に対し、繊維機械事業の主力市場であります中国の市場環境が大きく悪化、また、工作機械関連事業でも市況の回復が遅れましたことから、誠に遺憾ながら第1四半期の終了時に業績予想の修正を行なわざるを得ない状況となりました。

その後の経過に関しましては、繊維機械事業では、中心市場であります中国市場で銀行融資の停滞などにより、厳しい状況が続きましたものの、前年同期比では改善が見られ、ほぼ直近の予想の範囲内で推移いたしました。

工作機械関連事業では、主要な納入先であります工作機械業界が回復基調にある中、装置分野にも回復の兆しが見られておりますが、本格的な回復は第3四半期以降になる目処を立てております。

この結果、全体では受注高は16,430百万円（前年同期比29.0%減少）にとどまりました。売上高は18,943百万円（同比17.5%増加）と、前年同期比で増加し、概ね直近の予想のとおり推移いたしました。

このため、損益面では、営業損失544百万円（前年同期 営業損失902百万円）、経常損失576百万円（同 経常損失959百万円）、四半期純損失566百万円（同 四半期純損失952百万円）と、前年同期からは改善いたしましたものの、中国子会社の不振、工作機械関連事業の売上の伸び悩みが影響し、利益確保には至りませんでした。

(繊維機械事業)

繊維機械事業では、中心市場であります中国市場で、シャドーバンキング問題の影響などから、当初予定されておりましたお客さまへの銀行融資が実行されず、当事業の生産・売上に大きく影響いたしました。また、中国の繊維市場全般の状況では、フィラメント織物では冬季の需要期に入りましても前年度6割から7割程度のオーダーにとどまりました。また、スパン織物では、原料であります綿花の先安感から綿織物製品の動きが鈍く、市況の回復が遅れました。

このため、中国市場での受注高は5,405百万円（前年同期比56.4%減少）となりました。また、売上高は前年同期比では改善いたしましたものの、8,636百万円（同比20.5%増加）にとどまりました。

インド市場では、新政権による経済効果への期待と、織物市況が改善方向に向かっておりますことから、引合いや商談は堅調に推移し、成約も進みました。しかし、銀行融資の状況は引き続き厳しく、L/C（輸出信用状）の開設に時間がかかっております。

その他の市場では、老朽設備の更新による効率化を図る動きが見られました。インドネシアでは、人件費の高騰、電気代の高騰に対応するため省エネ・省人技術が進んだ新製品への更新がありました。欧州では、イタリア・スペインからの引合い、成約がありました。

日本国内では、政府の先端設備投資補助金等を活用した設備投資がありました。

コンジョット機械につきましては、航空機部材用自動積層機の追加受注をいただき、第3四半期での売上を予定しております。また、本年3月にパリで開催されました世界最大の炭素繊維機械展示会で当社製品を紹介し、海外航空機関連メーカーから注目を集めました。

この結果、当事業の受注高は12,747百万円（前年同期比37.0%減少）にとどまりました。売上高は15,511百万円（同比19.3%増加）と、前年同期比では改善し、ほぼ直近の計画どおりとなりました。損益面では、営業損失88百万円（前年同期 営業損失439百万円）と利益確保には至りませんでした。

(工作機械関連事業)

工作機械関連事業では、主要な納入先であります日本の工作機械業界の受注高が回復の傾向を明確にしております。本年3-5月の受注統計ではリーマンショック前の水準に近づいてまいりました。通常、工作機械業界の受注拡大の効果は数ヶ月遅れてNC円テーブルなどの装置分野に及ぶといわれております。当事業部門におきましても徐々に受注の回復の傾向がはっきりとしてまいりました。

産業別では、自動車業界では、米国の自動車業界が堅調に推移いたしました。また、日本の自動車業界でも海外への設備投資の機運が高まっております。さらに、ASEAN諸国、インド、中南米の市場でも自動車産業への設備投資案件が浮上してまいりました。こうした市場の動きは今後2年程度をかけて具体化していくものと見ております。

電子機器製造分野では、新型スマートフォンの季節需要(クリスマス商戦向け生産)に伴う設備投資が急増し、当事業部門におきましても夏から秋にかけて生産に反映される見通しとなっております。航空機業界では米国を中心に、設備投資は堅調に推移いたしました。

当事業部門におきましては、このような市場の回復を見込んで、新型NC円テーブルの開発を進めてまいりました。また昨年度に新たに設置いたしましたインドネシア、タイ、メキシコのサービス・販売拠点に対し、エンジニアへの教育・訓練を行うなど、海外拠点の体制の強化を図りました。

この結果、当事業の受注高は3,683百万円(前年同期比26.2%増加)と前年同期比で増加いたしました。売上高は3,432百万円(同比10.2%増加)と前年同期比で増加いたしましたものの、直近の予想には届きませんでした。このため、損益面では営業利益115百万円(同比74.7%増加)にとどまりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ3,643百万円減少し38,792百万円となりました。主な増減は、売上の減少による売上債権の減少によるものであります。負債は、前連結会計年度末に比べ2,985百万円減少し23,444百万円となりました。主な増減は、生産の減少による仕入債務の減少によるものであります。純資産は、四半期純損失566百万円を計上したこと等から、前連結会計年度末に比べ657百万円減少し15,348百万円となり、自己資本比率は36.9%となりました。

キャッシュ・フローの状況に関する分析

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ1,065百万円増加し8,751百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純損失561百万円の計上や仕入債務が減少したものの、売上債権の減少により1,957百万円となりました。(前年同四半期はマイナス2,406百万円。)

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出445百万円などによりマイナス493百万円となりました。(前年同四半期はマイナス1,261百万円。)

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入による収入100百万円があったものの、長期借入金の返済による支出468百万円などによりマイナス370百万円となりました。(前年同四半期は1,553百万円。)

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

世界経済は、ウクライナ情勢の動向、中東情勢の悪化、中国経済の減速など、新たなリスク要因も多く、今後の動向を注視しなければなりません。

繊維機械事業におきましては、引き続き受注の確保、売上の拡大に注力してまいります。

中国の繊維産業は、シャドーバンキングの影響による銀行融資の停滞や綿花価格下落の影響が引き続きリスク要因として考えられます。一方で、繊維製品の欧米向け輸出の増加に伴い繊維機械の設備投資の環境が改善すると見込んでおり、生産・売上の回復に向けて販売活動を強化してまいります。

本年6月に上海で開催されました国際繊維機械展示会では、市場の関心が高い高生産性に加え、省エネ・省人性能を高めた新製品を展示し、高い評価をいただきました。

また、かねてより展開しておりますグローバル・サービス・ネットワーク（GSN）の機能を一層充実、老朽設備の更新需要が高まっております日本や欧州市場での受注確保、部品販売の拡大など積極的に図り、受注・売上の拡大を図ってまいります。

収益性の改善を図るため、本社でのエアジェットルーム、ウォータージェットルームの生産機種をZAX9200、ZW8100に統一し、生産の効率化を図るとともに、生産コストの徹底的な見直しを図ってまいります。

中国生産につきましては、市況が低迷する中ではございますが、本社からのサポートを強化しながら、本社生産機種との戦略的な市場展開を図ってまいります。

工作機械関連事業におきましては、市況の回復が進む中、堅調に推移しております米国の基幹産業や四輪車へのシフトが進むASEAN諸国での自動車産業、新型スマートフォンなど電子機器産業、安定した設備投資が見込まれる航空機業界など、ターゲットを絞った効率的な販売活動を展開し、受注の拡大を図ってまいります。

生産面では、工作機械業界をはじめお客さまからの短納期の要求が高まっておりますことから、生産効率の改善を進め、受注の支援、収益性の向上を進めてまいります。また、新製品のボールドライブシステムのNC円テーブルの販売促進を図ってまいります。

このような状況から、通期の業績予想につきましては、売上高は40,000百万円、損益面におきましては、営業利益150百万円、経常利益100百万円、当期純利益100百万円に下方修正いたします。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当第2四半期連結会計期間において、当社100%出資連結子会社であるツダコマ運輸株式会社及びツダコマ・ゼネラル・サービス株式会社は、平成26年3月1日付けでツダコマ・ゼネラル・サービス株式会社を存続会社とする吸収合併を行いました。これにともないツダコマ運輸株式会社を連結の範囲から除外しております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (平成25年11月30日) | 当第2四半期連結会計期間 (平成26年5月31日) |
|---------------|--------------------------|------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 7,816 | 8,881 |
| 受取手形及び売掛金 | 16,024 | 11,066 |
| 製品 | 1,498 | 1,496 |
| 仕掛品 | 2,239 | 2,226 |
| 原材料及び貯蔵品 | 1,211 | 1,252 |
| その他 | 407 | 454 |
| 貸倒引当金 | △10 | △10 |
| 流動資産合計 | 29,186 | 25,367 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物(純額) | 4,127 | 4,080 |
| 機械装置及び運搬具(純額) | 2,158 | 2,189 |
| 土地 | 3,766 | 3,826 |
| 建設仮勘定 | 21 | 48 |
| その他(純額) | 307 | 320 |
| 有形固定資産合計 | 10,381 | 10,465 |
| 無形固定資産 | 54 | 50 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 2,587 | 2,600 |
| その他 | 645 | 727 |
| 貸倒引当金 | △419 | △418 |
| 投資その他の資産合計 | 2,813 | 2,909 |
| 固定資産合計 | 13,249 | 13,424 |
| 資産合計 | 42,435 | 38,792 |

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (平成25年11月30日) | 当第2四半期連結会計期間 (平成26年5月31日) |
|---------------|--------------------------|------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 4,653 | 3,594 |
| 短期借入金 | 6,452 | 6,304 |
| 未払法人税等 | 58 | 38 |
| 賞与引当金 | — | 594 |
| 受注損失引当金 | 84 | 13 |
| 未払金 | 7,105 | 5,445 |
| その他 | 1,781 | 1,397 |
| 流動負債合計 | 20,135 | 17,388 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 1,828 | 1,593 |
| 退職給付引当金 | 4,335 | 4,332 |
| 役員退職慰労引当金 | 28 | 26 |
| 環境対策引当金 | 32 | 32 |
| その他 | 69 | 70 |
| 固定負債合計 | 6,293 | 6,055 |
| 負債合計 | 26,429 | 23,444 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 12,316 | 12,316 |
| 資本剰余金 | 3,880 | 3,880 |
| 利益剰余金 | △299 | △865 |
| 自己株式 | △1,237 | △1,237 |
| 株主資本合計 | 14,659 | 14,093 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 125 | 128 |
| 繰延ヘッジ損益 | 8 | 1 |
| 為替換算調整勘定 | 202 | 109 |
| その他の包括利益累計額合計 | 336 | 239 |
| 少数株主持分 | 1,009 | 1,015 |
| 純資産合計 | 16,006 | 15,348 |
| 負債純資産合計 | 42,435 | 38,792 |

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自平成24年12月1日 至平成25年5月31日) | 当第2四半期連結累計期間 (自平成25年12月1日 至平成26年5月31日) |
|--------------------|--|--|
| 売上高 | 16,120 | 18,943 |
| 売上原価 | 14,903 | 17,186 |
| 売上総利益 | 1,217 | 1,757 |
| 販売費及び一般管理費 | 2,120 | 2,302 |
| 営業損失(△) | △902 | △544 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 0 | 0 |
| 受取配当金 | 8 | 8 |
| 投資有価証券売却益 | 22 | — |
| 補助金収入 | 1 | 9 |
| その他 | 13 | 18 |
| 営業外収益合計 | 47 | 36 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 41 | 41 |
| 為替差損 | 56 | 19 |
| その他 | 5 | 6 |
| 営業外費用合計 | 104 | 68 |
| 経常損失(△) | △959 | △576 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | 0 | 16 |
| 特別利益合計 | 0 | 16 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産処分損 | 2 | 1 |
| ゴルフ会員権評価損 | 0 | — |
| 特別損失合計 | 3 | 1 |
| 税金等調整前四半期純損失(△) | △962 | △561 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 12 | 15 |
| 法人税等調整額 | 1 | △19 |
| 法人税等合計 | 13 | △4 |
| 少数株主損益調整前四半期純損失(△) | △976 | △557 |
| 少数株主利益又は少数株主損失(△) | △23 | 8 |
| 四半期純損失(△) | △952 | △566 |

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自平成24年12月1日 至平成25年5月31日) | 当第2四半期連結累計期間 (自平成25年12月1日 至平成26年5月31日) |
|--------------------|--|--|
| 少数株主損益調整前四半期純損失(△) | △976 | △557 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 402 | 2 |
| 繰延ヘッジ損益 | △52 | △7 |
| 為替換算調整勘定 | 189 | △92 |
| その他の包括利益合計 | 540 | △98 |
| 四半期包括利益 | △435 | △655 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | △418 | △663 |
| 少数株主に係る四半期包括利益 | △17 | 7 |

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自平成24年12月1日 至平成25年5月31日) | 当第2四半期連結累計期間 (自平成25年12月1日 至平成26年5月31日) |
|----------------------|--|--|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税金等調整前四半期純損失(△) | △962 | △561 |
| 減価償却費 | 561 | 530 |
| 受取利息及び受取配当金 | △8 | △8 |
| 支払利息 | 41 | 41 |
| 売上債権の増減額(△は増加) | △3,957 | 5,067 |
| たな卸資産の増減額(△は増加) | △926 | △97 |
| 仕入債務の増減額(△は減少) | 2,708 | △2,690 |
| 退職給付引当金の増減額(△は減少) | 61 | △2 |
| その他 | 131 | △259 |
| 小計 | △2,351 | 2,021 |
| 利息及び配当金の受取額 | 9 | 8 |
| 利息の支払額 | △41 | △41 |
| 法人税等の支払額 | △22 | △31 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | △2,406 | 1,957 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 有形固定資産の取得による支出 | △561 | △445 |
| 投資有価証券の取得による支出 | △10 | △9 |
| 投資有価証券の売却による収入 | 181 | — |
| 関連会社株式取得による支出 | △828 | — |
| その他 | △43 | △37 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △1,261 | △493 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 長期借入れによる収入 | 2,125 | 100 |
| 長期借入金の返済による支出 | △569 | △468 |
| 自己株式の取得による支出 | △0 | △0 |
| 少数株主への配当金の支払額 | △2 | △2 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 1,553 | △370 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 61 | △28 |
| 現金及び現金同等物の増減額(△は減少) | △2,052 | 1,065 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 10,169 | 7,686 |
| 新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額 | 204 | — |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 8,320 | 8,751 |

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成24年12月1日 至 平成25年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

| | 繊維機械事業 | 工作機械 関連事業 | 合計 | 調整額 (注)1 | 四半期連結損 益計算書計上 額(注)2 |
|-----------------------|--------|--------------|--------|-------------|---------------------------|
| 売上高 | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 13,006 | 3,114 | 16,120 | — | 16,120 |
| セグメント間の内部売上高 又は振替高 | 217 | — | 217 | △217 | — |
| 計 | 13,223 | 3,114 | 16,337 | △217 | 16,120 |
| セグメント利益又は損失(△) | △439 | 66 | △373 | △529 | △902 |

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメントに配賦していない全社費用△529百万円でありま
す。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っています。

II 当第2四半期連結累計期間(自 平成25年12月1日 至 平成26年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

| | 繊維機械事業 | 工作機械 関連事業 | 合計 | 調整額 (注)1 | 四半期連結損 益計算書計上 額(注)2 |
|-----------------------|--------|--------------|--------|-------------|---------------------------|
| 売上高 | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 15,511 | 3,432 | 18,943 | — | 18,943 |
| セグメント間の内部売上高 又は振替高 | 268 | — | 268 | △268 | — |
| 計 | 15,779 | 3,432 | 19,211 | △268 | 18,943 |
| セグメント利益又は損失(△) | △88 | 115 | 27 | △572 | △544 |

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメントに配賦していない全社費用△572百万円でありま
す。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っています。